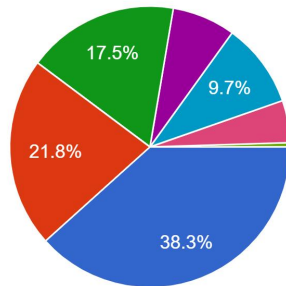


令和6年12月～令和7年3月
「中学3年生へのアンケート」より

質問1 中学校の地区を教えてください。

中学校の地区を教えてください。

206 件の回答

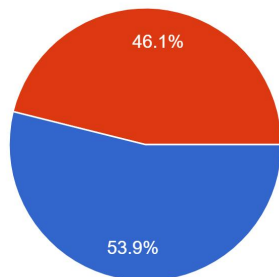


- 横浜
- 川崎
- 横須賀 (横須賀、三浦、逗子、葉山)
- 湘南 (藤沢、鎌倉、茅ヶ崎、寒川)
- 中 (平塚、秦野、伊勢原、中郡)
- 相模原
- 県央 (大和、厚木・愛甲、座間、海老名、綾瀬)
- 県西 (小田原・足柄下、足柄上・南足柄)

質問2 所属 (男子・女子) を教えてください

所属

206 件の回答

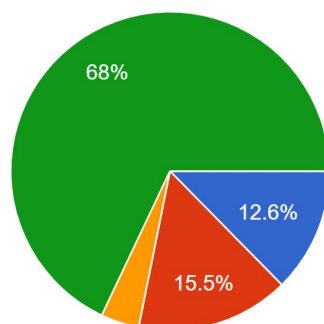


- 男子剣道部
- 女子剣道部

質問3 剣道を始めた時期を教えてください。

剣道を始めた時期を教えてください。

206 件の回答



- 小学校入学前
- 小学校1年～3年
- 小学校4年～6年
- 中学校に入学してから

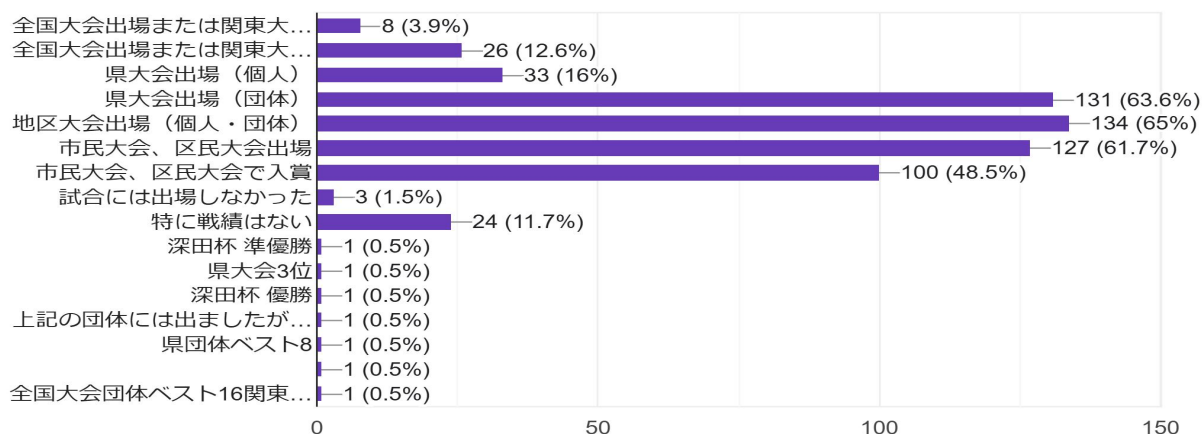
* アンケートに答えてくれた部員の約7割が中学校から剣道を始めている。

質問4

中学校での主な戦績を教えてください。

中学校での主な戦績を教えてください。（複数回答可）

206 件の回答

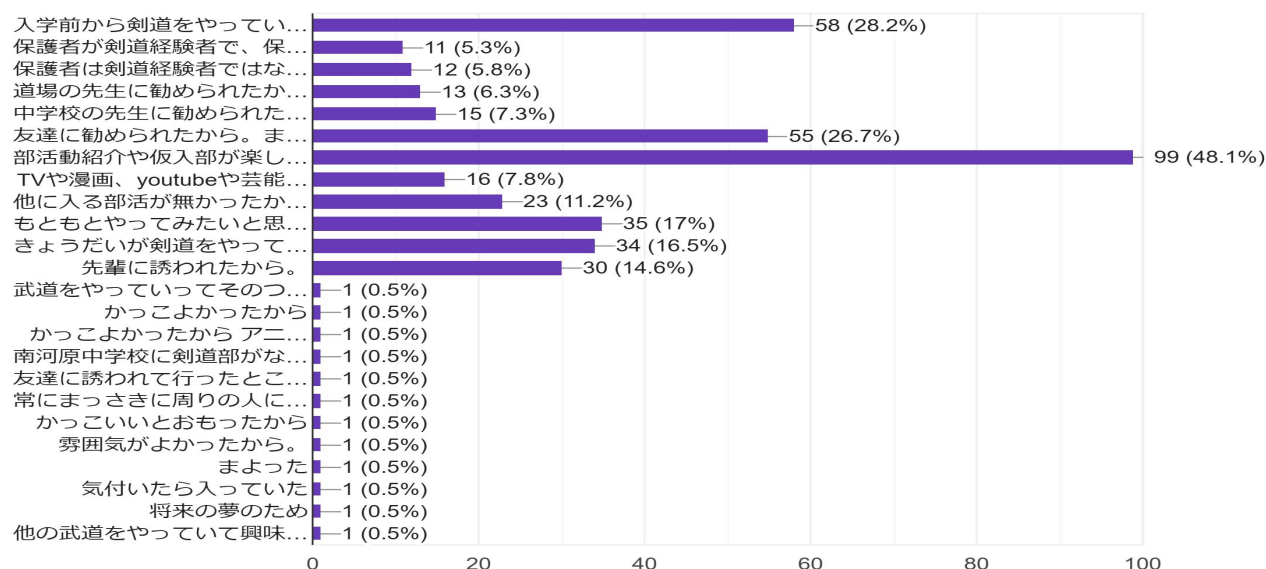


質問5

中学校で剣道部に入部したきっかけを教えてください。

中学校で剣道部に入部したきっかけを教えてください。（複数回答可）

206 件の回答

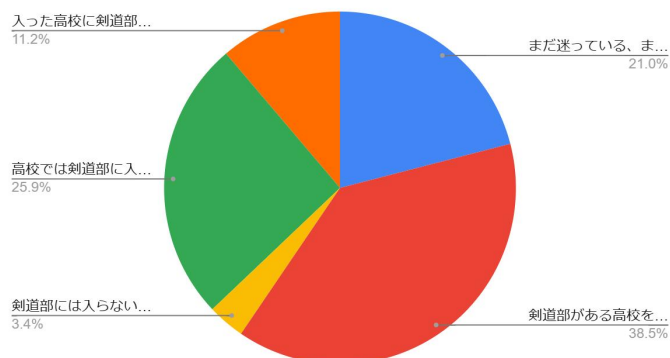


* 剣道部に入るきっかけの多くは、半分ほどの生徒がその部の雰囲気を気にいって興味をもっている。または先輩(14.6%)や友達(26.7%)に誘われたなど、中学生どうしの会話や雰囲気の中で剣道部を選んでいる様子がわかる。

質問6 高校で剣道を続けようと思っていますか。

- 剣道部がある学校を受験する
- 入った高校に剣道部があれば検討する
- 高校では剣道部に入らない
- 剣道部には入らないが、道場などで続ける
- まだ迷っている

「高校で剣道を続けようと思っていますか。」のカウント数

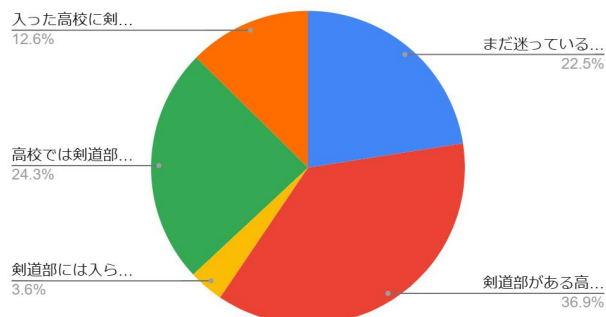


* 全体では4割近くの生徒が剣道を意識した進路選択をしている。一方で、4分の1ほどの部員はもう剣道部に入らないと決めていることがわかる。

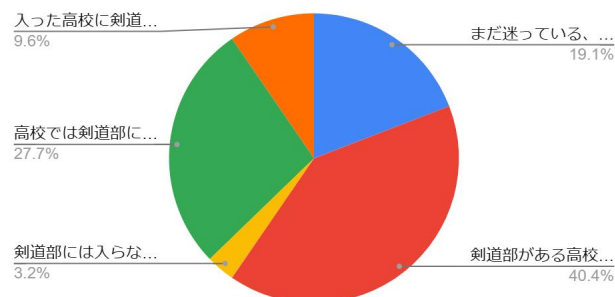
男女別

- 剣道部がある学校を受験する
- 入った高校に剣道部があれば検討する
- 高校では剣道部に入らない
- 剣道部には入らないが、道場などで続ける
- まだ迷っている

「高校で剣道を続けようと思っていますか。」男子



「高校で剣道を続けようと思っていますか。」女子

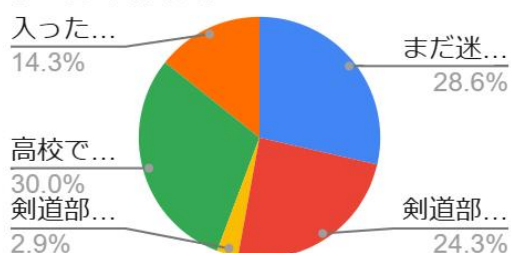


* 男女別ではそんなに差がないが、剣道部がある学校を受験する生徒の割合、高校では剣道部に入らないときめている生徒の割合はどちらも女子のほうがやや高いことがわかる。

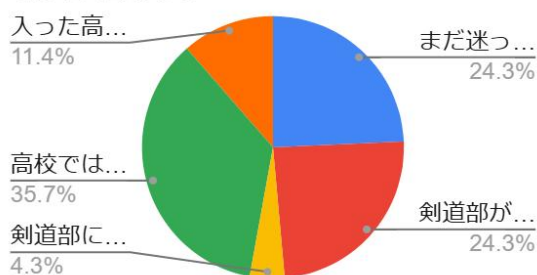
○初心者、男女別

- 剣道部がある学校を受験する
- 入った高校に剣道部があれば検討する
- 高校では剣道部に入らない
- 剣道部には入らないが、道場などで続ける
- まだ迷っている

初心者男子



初心者女子

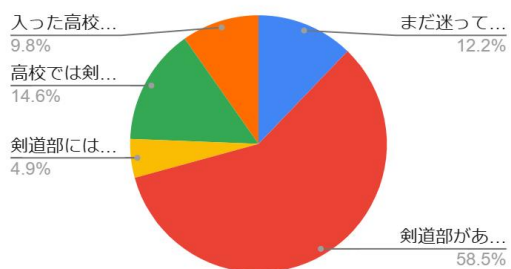


* 初心者に限ると、剣道部に入ると決めて進路選択をしている生徒は全体の4分の1である。男子は3分の1、女子は4割もの生徒が高校では剣道部には入らないと決めている。

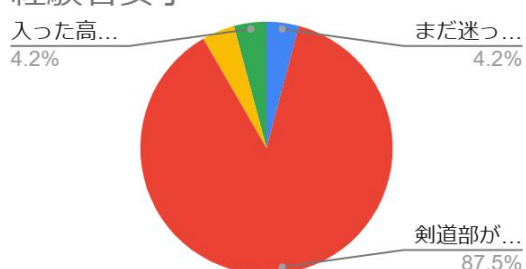
○経験者、男女別

- 剣道部がある学校を受験する
- 入った高校に剣道部があれば検討する
- 高校では剣道部に入らない
- 剣道部には入らないが、道場などで続ける
- まだ迷っている

経験者男子



経験者女子

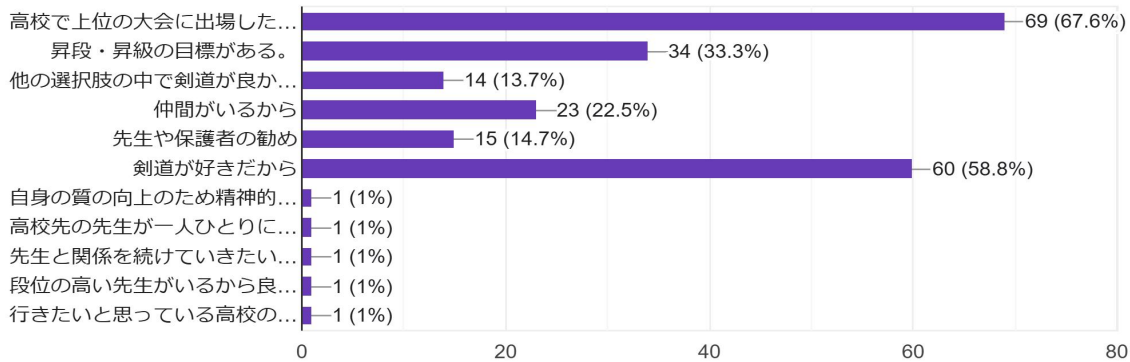


* 経験者では、特に女子は実に87.5%が剣道部を意識した進路選択をしている。

質問7 高校で剣道を続けようと思った理由を教えてください。

高校で剣道を続けようと思った理由を教えてください（複数回答可）

102 件の回答



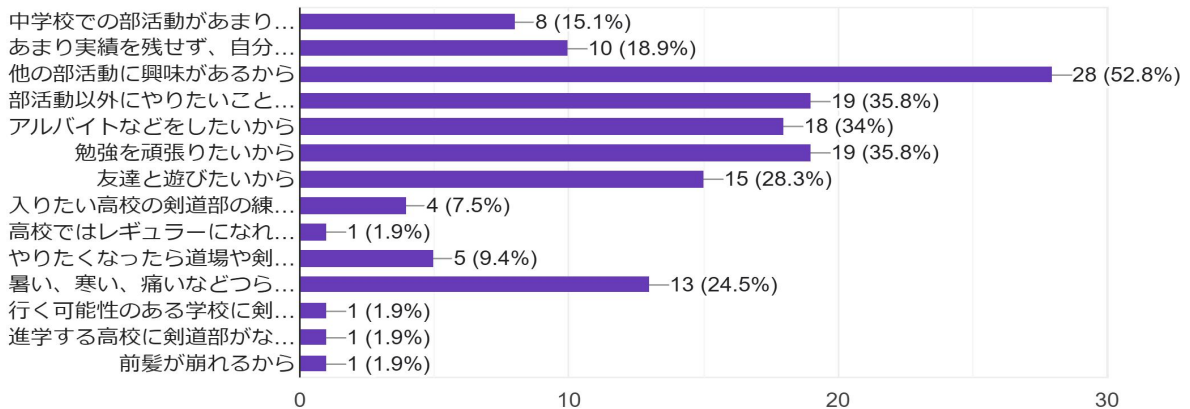
分析

目立つのは「剣道が好き」という回答。つらく厳しい剣道の稽古を高校の部活動で続けようと思ったのは、剣道が好きという気持ちが大い。

質問8 高校で剣道を続けないと考えている理由を教えてください。

高校で剣道を続けないと考えている理由を教えてください。（複数回答可）

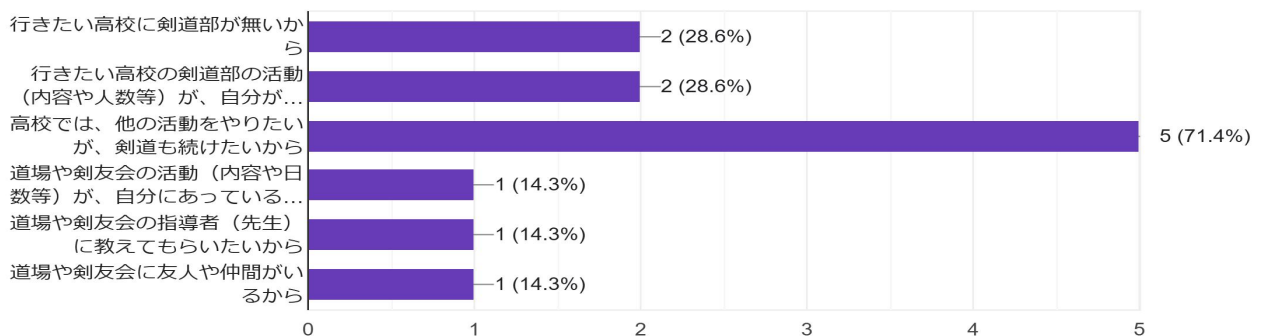
53 件の回答



質問9 部活動には入らないが、道場などで剣道を続ける理由を教えてください。

部活動には入らないが、道場などで剣道を続ける理由を教えてください。（複数回答可）

7件の回答



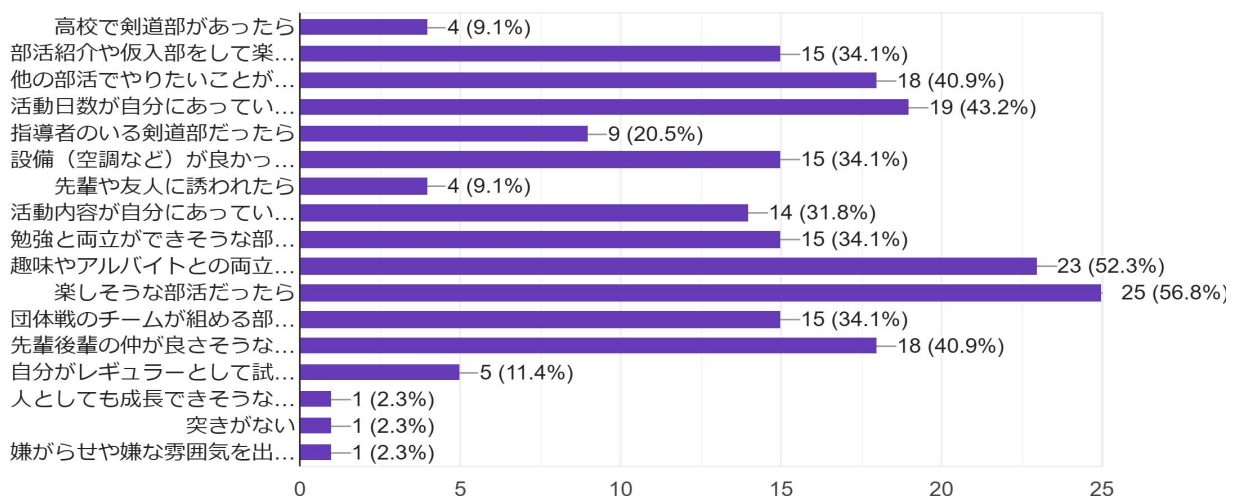
分析

中学まで部活動で剣道をやってきても、高校では違うことや、いろいろな活動に興味がある。その中での選択は、部活以外で剣道を続けることなのかもしれません。

質問10 どんなことがあったら、どんな剣道部だったら剣道を続けようと思いますか。

どんなことがあったら、どんな剣道部だったら剣道を続けようと思いますか。

44件の回答



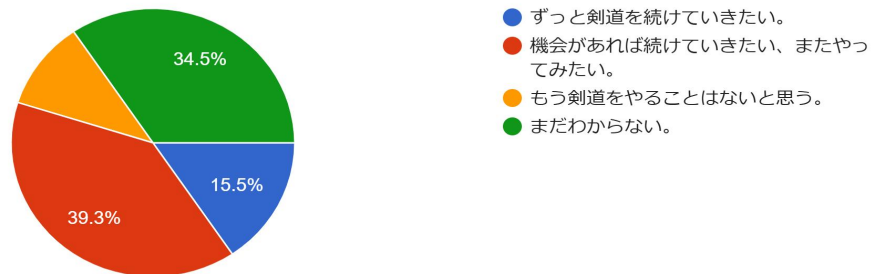
分析

「楽しそうな部活」の次に多いのは「趣味やアルバイトとの両立ができそうなら」。剣道一直線の我々世代も考えを変えて、趣味として剣道と関わっていく選択肢を増やす必要があるかもしれない。

質問 11

進学や就職などで、剣道を一時中断することがあったとしても、いずれ再開して剣道を続けていきたいと思いませんか。

進学や就職などで、剣道を一度中断することがあ...れ再開して剣道を続けていきたいと思いませんか。
206 件の回答



分析

「まだわからない」「機会があれば続けていきたい」を合わせて74%。この層が再開する機会は地元の道場、剣友会でしょうか。

中島先生

たまご杯、ひよこ杯の運営を専門部独自で運営するとのことですね。承知しました。
県剣道連盟としては別個に取り組みたいと思います。

中体連全国大会種目が減るとの報道を聞きました。中学校部活、3育(知育、徳育、体育)のうちのひとつ、体育がますますおろそかにされるようで懸念しています。この解決には中体連のみでは不可能と考えています。在り方として基本構想をもって、各地域の実情に合わせて実施、実現していくことを念頭に検討していくことが必要と思います。

野見山先生

ですが、もし厳しい日程がありましたら、養護教諭等で対応いたしますので、無理なさらで大丈夫です。
先日のたまご杯・ひよこ杯は約1,000人の参加者が集いました。保護者の観覧も多く盛況でした。

野見山先生

なお、別件で横須賀市の中体連の今後の動向がまた聞きではありますが、分かってきました。部活動は週4回から3回になること、更に学校単位の部活動はなくなり数校単位の部活動に変わってくる(例として、日曜日に数校集まり練習)。教員は部活動には携わらない方向に進んでいくとのこと。横須賀市教育委員会としては日本の伝統文化である剣道はじめ他の武道人口の減少には歯止めをかける方向で動いているとのこと。

今年度から、中体連の大会で審判ができる先生は5人に減り、横須賀剣連からの派遣審判員は昨年までの13名から17名に増やしています。

このように将来かなり厳しい状況になりつつあります。

以上、長くなりましたが報告します

田島東海男

中学校の部活動を地域移行についての課題

最初に、「スポーツ庁の有識者会議は、中学校の部活動を地域のスポーツクラブや民間団体などに移すための対応策をまとめた提言を室伏広治長官に提出し、令和7年度末を目途に移行する目標を掲げています。」という記事を目にしました。この記事では、「ともかく、まずは公立中学校の休日の部活動の地域移行をなんとか進めるべし」ということに焦点が当たっていますが、次の点で課題があると思われます。

① 教員の負担は思っているよりも減らない。

なぜなら、地域クラブの活動の会場として学校を使うことが多く、公式試合などの運営（中学校体育連盟や文化連盟）をこれまで同様に教員が担うことが必須とされていることが多い。生徒が怪我をした場合や大会出場時の引率は学校に連絡が来ることが必須であり、教員は安全管理やその対応や保護者との対応が必要となる。

② 部活動指導員（外部指導員）では運営面でできない部分が多い。

大和市では、部活動指導員は、中学校部活動の指導を支援するために「中学校部活動指導ボランティアバンク事業」を実施している。主に以下の役割を担っている。ア、技術指導イ、安全管理ウ、生徒の育成エ、顧問との連携（教員はとりわけ、指導に当たる担当者や活動種目によって、個別の対応が必要になり、連携先との連絡や情報共有に費やす時間が増える）となっている。しかし、部活動指導員は、技術指導はできても、生徒の引率や大会時の監督ができず、施設の管理や中体連の運営に直接関与できないことがある。

③ 親の負担も子どもの負担も増える。

スポーツクラブを考えた場合、毎日送迎しなければならず、親の負担も子どもの負担も増える。また、試合に出場できる枠が限定されることもあったり、試合に出られない子も増える。或いは、練習試合をする際は、送迎の負担、月謝がかかるなどの金銭的負担が増える。親が送迎できない場合は、通えるところにあるスポーツしか選べない可能性もある。また、地域の活動は夜間が多く、中学生ともなると塾などとの予定とバッティングして通うことが難しく、子供の負担も増える。

以上の点で、部活動の地域移行は簡単には移行できず、外部からの協力体制は整っていても、部活動を学校教育の場から完全に切り離さないと解決にならないと思われます。しかしながら、日本の部活動は学校教育の放課後の活動として、子供たちの居場所を確保し、部活動が果たしてきた教育的効果、スポーツや文化の発展に大きな役割を果たしてきました。さらに部活動の指導に情熱を持っている教員も大変多く、簡単に切り離すことは難しいと思われます。一方で、文部科学省では、教師の勤務実態や働き方改革によって改善を迫られ、学校部活動指導もままならぬ方向に進んでいると思います。スポーツ庁の発信によって、この矛盾を地域移行するにあたり、任せられる側の外部組織は学校とどう向き合っていくかが今後の大きな課題であると思われます。この課題どうしたらよいでしょう……



始まりました！

2025 年度 秦野市中学校 剣道地域部活動

2024年度の地域部活動アンケートから・・・

『自分の目標を意識でき上手くなった』『先生が優しく教えてくれて多くを学んだ』
『他校の生徒と関わりが深まった』『技だけでなく剣道に関する考えも深まった』



2025 年 6 月 7 日



初心者へ丁寧な指導

最初の1年で基本を身に付け
卒業までに有段者を目指します



経験者レベルに合わせ指導

基本から各種の技を学び、指導
稽古で実力向上を図ります



最後に今日の振り返り

小グループで今日の稽古の気付き事項、目標など話し合います

初心者から2段クラスまで、楽しく充実した活動を目指しています

次回：8/23(土)9時～12時 市総合体育館第1武道場

《今年の予定：9/7(日) 10/19(日) 11/29(土) 12/6(土)》

＊＊市剣道連盟の稽古(原則毎週土曜 18 時～)も参加自由です＊＊

秦野市地域部活動へ向けて 2025年度 剣道推進計画

2025年4月19日

秦野市剣道連盟 萩原

1. 中学校部活動の方針と地域展開への推進計画

1.1. 背景

1. 少子化が進む中で、スポーツ・文化芸術活動を継続し親しむ機会の確保
2. 学校の働き方改革

1.2. スポーツ庁、文化庁ガイドライン

1. 学校部活動の地域連携や地域クラブ活動移行に向けた環境を整備
2. 休日の部活動から、地域連携部活動*や地域クラブ活動‡ への段階的移行

地域連携部活動*：学校と地域の合同部活動（以降地域部活動を称する。）

地域クラブ活動‡：地域団体が主催する活動

1.3. 秦野市剣道部活動の地域展開推進計画

スポーツ庁の方針 休日の部活動の地域展開 R6年12月「有識者会議中間とりまとめ」より地域移行から地域展開へ名称変更）

○令和4年12月：スポーツ庁ガイドライン

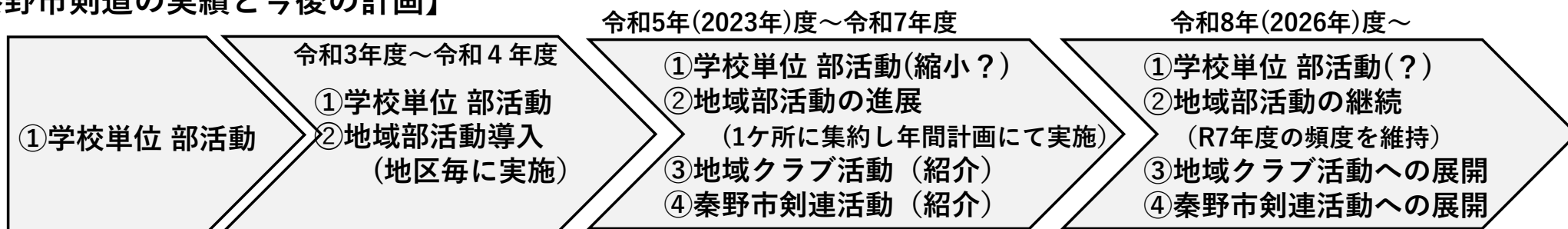
- ・令和5年度～令和7年度を改革推進期間として、地域連携・地域移行に取り組みつつ可能な限り早期の実現を目指す。

○令和6年12月：活動改革の“現状”と“展望”～有識者会議による[中間とりまとめ]～

- ・2025度に「改革推進期間」を経て、2026年度から「改革実行期間」へ移行。

（前期R8～R10年度：中間評価：後期R11～R13年度）平日の改革は中間評価の段階で取り組み方針を定める）

【秦野市剣道の実績と今後の計画】



R7年度の方針

- ①地域部活動は従来よりの計画的な指導体系を深化させ、また、より興味を持って学べる環境を提供する。
- ②地域部活動頻度は年10回程度を維持し、R8年度以降のニーズによってクラブ等、他の活動を紹介(体験)する。

2. 秦野市中学生の剣道環境と2025年度の枠組み

項目	学校 部活動	休日の地域部活動	秦野市剣道連盟活動	地域クラブ(団体) 活動
主催	当該校	市教育委員会より委託 (スポーツ協会・市剣連)	市剣連	地域団体
参加者	当該校剣道部員 (全員市連盟会員・準会員登録)	市内在住中学生	市連盟会員・準会員 (小中学生から一般)	地域団体の加入会員
活動場所 /曜日	当該校 /平日～(休日)	市総合体育館第一武道場 /土(日)(年間約10回)	市総合体育館 /土日休日(毎週1回～)	公共施設 /団体指定日(平日&休日)
費用	・用具交通費実費	・用具交通費実費	・用具交通費実費	・用具交通費実費 ・団体会費
指導者	・当該校顧問職員 ・外部指導員	・地域部活動協力者 ・剣連会員指導者	・剣連指導部 及び、高段者	・団体指導者
指導謝礼	一定額 (公的機関より)	一定額(教育員会より) 不足分は市剣連補填	無報酬	一定額(会費より)
保険	災害共済給付	スポーツ安全保険	基本的には自己責任 スポーツ安全保険加入推奨	スポーツ安全保険
教育体系	学校教育の一環 (欠席者のフォロー)	学校教育に準ずる (出欠席の検証は行わない)	社会教育の一環	社会教育の一環

(注) スポーツ安全保険：公益財団法人スポーツ安全協会：中学生年間800円、保証額は災害共済給付とほぼ同様
地域部活動での保険は、団体のスポーツ保険加入者は適用されるが、団体未加入者は新たに保険加入要。

3. 2025年度の秦野市剣道 地域活動

3.1. 地域部活動 << 概要 >>

- ・ 場所：秦野市総合体育館第一武道場
- ・ 日程：土曜 & 日曜：年10回
- ・ 時間：9:00～12:00 【市剣連合同稽古会（希望者）】 当日12:00～13:00
- ・ 費用：800円/年：『スポーツ安全保険』 団体加入者は『地域クラブ活動』の保険を使用可能

3.2. 地域クラブ・市連盟の活動 << R8年度以降のニーズにより稽古紹介・体験 >>

No	主催団体	稽古場所	参加費用	平日稽古	休日稽古
1	士道館	南ヶ丘小学校(2, 4 週) 南ヶ丘中学校(1,3,5週)	3000円/月	なし	土 19:00～21:00
2	秀宣館	鶴巻中学校	平日 500円/週	火・水・金 19:30～21:00	土 19:30～20:30
3	秦武館	北中学校 (月) 西中学校 (水) 本町中学校(火・木)	2500円/月	月・火・水・木 18:30(19:00)～ 20:30(21:00)	なし
4	秦野市 剣道連盟	市総合体育館 第一武道場	なし	なし	土 18:00～20:00 希望者(～21:00) (日曜：月1回程度)

【その他費用】市剣道連盟に加入（1級未満(準会員）1000円/年：1級以上(正会員：神奈川県剣道連盟にも所属）2000円/年）

3. 2025年度 剣道 休日地域部活動の取り組みについて

3.1.基本方針

- ① 剣道指導を通じて、希望する生徒に「自ら学び考える力」「生きる力」を育む一助とする。
- ② 子供が主体的に動ける支援、個性を伸ばす指導に徹し、楽しく学び続ける環境を提供する。
- ③ 剣道技術の基礎的な部分は、標準化した指導法を作成し実施する。
- ④ 剣道の楽しさ・満足感の醸成のため、『多くの友人や先生との対人稽古』の時間を増やす。(2025年追加)
- ⑤ 安全予防対策を日頃から意識し、安全・危機管理に備える。(市剣連ヒヤリハットの取組を活用)

3.2. 運用方法(概要)

- ① 剣道経験により2～3グループ(初心者/中級者・上級者)に分けて指導
- ② 活動参加時間は生徒の任意(子供の予定に柔軟に対応：いつ始めても、いつ終了してもよし)
- ③ 服装はトレーニングウェアでも可。 但し、指導者は剣道着・袴着用のこと。

3.3.日程、及び指導者登録について

(1)日程：年10回 (5/24, 6/7, 8/23, 9/7*, 10/19*, 11/29, 12/13, 1/24, 2/7,3/7)：*印：日曜

(2)時間：8:30開場 開始9:00 終了12:00(11:50稽古終了)

- ① 9:00～9:30 金木先生の基礎講座
- ② 9:30～10:20コース別
- ③ 10:30～11:15 各コース別及び全体稽古
- ④ 11:15～11:25 振り返り(ミーティング)
- ⑤ 11:30～11:45 全体回り稽古5～6回：2.5分+0.5分指導
- ⑤ 11:50閉会式 [12:00～12:50 連盟稽古会(小学生～一般)は自由参加]

(3)指導者の任命と登録

- ・ 地域部活動支援協力者は市剣連会長が指名し、市剣連の『指導者研修会』の受講等を条件とする。
- ・ 必要書類「地域部活動支援協力者 登録申請書」の教育委員会への提出は個人毎に行う。(毎年登録)
- ・ 上記指導者のサポーターとして、連盟所属の大学生以上も参加を可能とする。(会長へ事前確認を行うこと)
- ・ 指導者への謝礼金： 原資は教育委員会にて支出。不足分及びサポーターへの謝礼は市連盟から支出。

3.4. 指導について

(1) 目標

- ・基本の習得は第一ではあるが、剣道を楽しみ、好きになってもらうことも大きな目標。
具体的には、稽古内容のアレンジに加え、稽古前の目標想定、稽古後の振り返りなどグループディスカッションは毎回継続する。（個人の疑問点・悩みなども聞いて、できる限り回答する。）

(2) 指導基本計画

- ・別紙『2025年度地域部活動A/Bコース別活動スケジュール』を基本とする。（但し、自由にアレンジ可）

(3) 指導責任者の輪番体制

- ・色々な先生の指導が良かったとの意見で、当日の指導責任者は1クール（2回）を原則とする。
- ・参加可否を事前に伺い輪番制で依頼します。（昨年度と同様）

(4) 指導に伴う諸策

- ・グループ数：A,Bの2グループで経験1年以内と1年以上を原則とする。
（Bグループは技量の差も大きいとため、2グループに分ける回もあり。当日の先生間で決定）
- ・小グループ分け：出席の先生1人に1グループを作り、先生から個別指導を受け入れやすい環境にする。
（他校生との交流を深めるためにも、学校に偏らないように編成する。）
- ・当日の指導責任者と協力者の関係：指導責任者が説明全てを受け持たなくともよい。
（グループ内のレベルの差も考慮し、適時、協力者が小グループ単位で説明も行う。）
- ・基本の習熟と工夫を念頭に、飽きないで、継続的に習得してもらう。
（毎回20分～30分全員一緒に剣道の基礎を学ぶ。2025年度も金木先生へ講師をお願いしました。）
（基本の認識を高めるため、生徒と一緒に考え判定する“基本稽古の試合”を取り入れる。）
- ・実戦にも役立つ稽古：興味を持ってもらうためにも、後半の全体稽古も実施。指導稽古も組み入れる。
（近隣中学生と練成会を通して振り返り実戦での確認をする。1/24於メインアリーナ）
- ・形稽古：木刀による剣道基本技稽古法9本(Aクラス)、剣道形5本(Bクラス)を習得する。

3.5. 指導者の分担について

(1) 該当日の指導者の役割分担

- ・指導責任者：地域部活動支援協力者からA、Bコースの各1名を設け、コースの進行、運用を担う。
- ・一般指導者：地域部活動支援協力者及び連盟会員の協力者（サポーター）＊が担当。役割は【下記】。
（大学生以上も可とする。但し、事前に『本資料』と『指導者勉強会資料』を熟読・理解していただく。
交通費として後日連盟より1,000円支払い。若い先生にも教えてもらいたいとの要望を反映）
- ・指導責任者のサポートの役割
 - ・全体稽古の流れの中で（流れを妨げない様）、生徒への助言を行うと共に、小グループまとめ役としてグループ内デスカッションの（聞き役、まとめ役）の役割も担う。
 - ・場合によって、指導責任者に委託され、コース内での小グループの指導を受け持つ場合も有り。

(2) 指導者の割り振り（担当依頼）：2025年度も昨年に引き続き会長が以下の手順により実施する。

- ・1クール（2回）単位で事前に、該当指導日に参加可能か確認する。（メールにて実施）
- ・上記参加者から、該当日の指導責任者・指導者を依頼する。（事前にメールでお願いする。）
- ・尚、指導責任者・指導者・担当コース等は固定せず(順次依頼)個々の経験を積んでいただく予定。

(3) 指導責任者の指導内容への振り返り

- ・2024年までは、指導内容について指導者間の共有化を図るため振り返りのレポートを依頼していましたが、データも蓄積されており（指導者責任者の負担低減も考慮し）今年度はレポートの提出はお願いしません。
- ・過去の先生方からの資料は、共有化できるように皆様へメールにて配布します。

(4) お願い

- ・返信なく再確認のケースも度々有り、メールのチェックと返信期限の順守をお願いします。